

平塚市内の事業連携をクローズアップしていく、このシリーズ。
第8弾は地域に根付いた「ビスキュイテリ マ・コピーヌ」（以下、マ・コピーヌ）さんをベジ太とタマ三郎が取材しました！お菓子へのこだわりはもちろん、平塚市に対する素敵な想いをたくさん伺うことができました。



内容

産業間連携ネットワークを活用し、「マ・コピーヌ」、「スタジオクワカ」がプロジェクト（スーベニア平塚）を立ち上げ、平塚をイメージする新たな手土産を開発しました。「スーベニア」とは英語で、手土産・記念品という意味です。今回は「マ・コピーヌ」さんに、商品の開発秘話などについてインタビューしました。

<前回までの流れ>

ベジ太：産業間連携に取り組んでいる事業者さんから、貴重なお話をたくさん聞くことができたね！

タマ三郎：そうだな！また平塚市を盛り上げている事業者さんから素敵な話を聞きたいぜ！

ベジ太：実はね、気になるお店があって、「マ・コピーヌ」さんっていう焼き菓子店なんだ。産業間連携ネットワークを活用して平塚の手土産にぴったりの商品を開発してみたい！

タマ三郎：なんだって！？それは色々と話を聞いてみたいな！よし！一緒に「マ・コピーヌ」さんに行ってみようううううううっ！！！！！！

ベジ太

はじめまして！「マ・コピーヌ」さんは焼き菓子が専門のお店なんですね！まずは、お店のコンセプトについて教えてほしいな。

マ・コピーヌ 松元さん

はい、コンセプトは、平塚に住んでいることが楽しくなるようなお菓子を作る事です。平塚の四季折々の素晴らしさや伝統を盛り込んでいます。また、大切な人に

気持ちを伝えるときに、彩りを添えるものを気軽に買うことのできるお店作りを心がけています。

ベジ太

松元さんの作るお菓子はプレゼントとしても自分へのご褒美としてもぴったりだね！一工夫あるお菓子を作る松元さんは、どんな経歴なのかな。

マ・コピーヌ 松元さん

20歳でコンピューターメーカ

ーに就職したのですが、「好きなお菓子について勉強したい」という想いから、30歳のときに夜間の製菓学校へ入学しました。働きながら学び、卒業後はフランス菓子店で修業しました。会社員からパティシエへの転職は、とても大きな決断で勇気がいりましたね。フランス菓子店等で勤務した後独立し、幼少期を過ごした平塚市西八幡に出店しました。

ベジ太

好きなことを職業にするって夢があるね！これから起業や新しい道に進むかどうか迷っている人にとって、勇気が出るお話だね。ところで、産業間連携ネットワークの会員になるきっかけはなんだったの？

マ・コピーヌ 松元さん

きっかけは、平塚市の職員の方からの紹介でした。「個店アドバイザー派遣制度」*を利用した際に、産業間連携ネットワークのシステムについて聞きました。

※) 店舗経営の専門知識や経験があるアドバイザーを市内の店舗に派遣し、店舗づくりや販売促進を支援します。各個店へのアドバイザー派遣費用は、全額市が負担します。詳細は、平塚市商業観光課までお問い合わせください。

ベジ太

市職員からの紹介がきっかけなんだ！産業間連携ネットワークの存在が広まって、もっとたくさんの方が入会してくれたら嬉しいなあ。マ・コピーヌさんと言えば、産業間連携ネットワークでスタジオクーカさんとコラボして、「ひらつかリンツァー」を開発したよね！開発の経緯を教えてくださいな。

マ・コピーヌ 松元さん

もともと、平塚を知ってもらえて、喜んでもらえる手土産品を作りたいかったです。市外の方から買っていただくことも嬉しいですが、平塚に住んでいる人がよその街に遊びに行く時に持っていく

手土産として、使ってもらえるイメージで開発しました。



ベジ太

新しい手土産品かあ！平塚を代表する手土産にするために、「ひらつかリンツァー」でこだわった部分はあるのかな。

マ・コピーヌ 松元さん

そもそも「リンツァー」というお菓子をご存知ですか？リンツァーは、オーストリアの伝統的なお菓子です。大きいホールで作ることが一般的ですが、一人前サイズで食べやすくしました。作り方は、伝統の製法と味わいは崩さないようにしつつも、平塚のエッセンスを散りばめています。お菓子の骨格になる小麦は、湘南小麦を使用しています。また、時期により平塚市の特産品でもある苺をジャムに取り入れています。



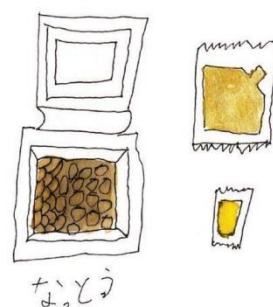
ベジ太

伝統的なリンツァーの味を守りつつ、平塚市の素材を取り入れることで新しいお菓子を生み出し

たんだね！今回、スタジオクーカさんとコラボしたきっかけはなんだったのかな。

マ・コピーヌ 松元さん

手土産品は、味へのこだわりはもちろんですが、パッケージにも力を入れたかったんです。どんなパッケージがいいのか考えたときに、スタジオクーカさんで以前購入したミニバックの絵柄を思い出しました。ミニバックには納豆の絵が描かれているのですが、とても味のあるおもしろい絵で、この絵を描いた人にパッケージの絵を描いてほしいと思いました。そこで、スタジオクーカさんに相談に行きました。



ベジ太

スタジオクーカさんとのコラボは、松元さんからのオファーで始まったんだね！素敵な巡り合わせだなあ。

マ・コピーヌ 松元さん

スタジオクーカさんが依頼を受けていただける会社なのかもわからなかったのですが、相談したところ、私の考えに賛同していただくことができました。お互い産業間連携ネットワークの会員だったので、プロジェクトチームを発足しました。幸運にも納豆の絵を描いた二見幸徳さんをお願いすることができました。絵は、平塚の名所として、七夕まつり、湘南平の南京錠、湘南海岸の貝殻が散りばめられているデザインになっています。



タマ三郎

プロジェクトチームとして商品を開発した理由はあるのかい？

マ・コピーヌ 松元さん

産業間連携ネットワークに所属し、プロジェクトチームを発足す

ると、経費の補助を受けることができます。補助を受けることができたのは、大変助かりました。また、コラボして開発したおかげで、スタジオクーカさんに関わりのある方々へ周知することができました。今まで以上に幅広い方に、お店を知ってもらえたことはメリットですね。



タマ三郎

ネットワークに所属して、開発したからこそこのメリットだな！商品が完成するまでに、苦労したことはあったのかい？

マ・コピーヌ 松元さん

商品開発についてはトントン拍子に進みました。商品完成後、普及させることの方が難しく感じます。今回のプロジェクトは比較的スムーズに進みましたが、場合によっては思い通りにいかない

こともあると思います。強い想いを持って、引っ張っていく気持ちが大変だと感じました。

タマ三郎

プロジェクトを成功させるためには、完成に向けて諦めない気持ちが大変だよな！今後の事業展開はどうなっているんだい？

マ・コピーヌ 松元さん

平塚市の特産品を市内外に打ち出したいです。平塚市の商業全体で特産品をもっとアピールすることで、初めて平塚市を訪れた人に特産品が何かわかるようになったらいいなと思います。個々のお店で頑張ることはもちろんですが、平塚市全体でプロデュースしていくことが必要だと感じます。

ベジ太・タマ三郎

松元さんのお菓子や平塚市に対する熱い想いを聞くことができるとても勉強になったよ！今後も平塚市でたくさんの連携が生まれて、ますます平塚市が盛り上がるといいな！

「平塚市産業間連携
ネットワーク会員」
募集中！！

平塚市 産業間連携

検索



たくさんの事業連携を紹介してきた「こららぼ」ですが、本号が最終号となります。
今後、平塚市の産業間連携の事例については、市HPで紹介していきます！

「こららぼ」をご愛読して下さった方々に、心より感謝を申し上げます。

これからも、平塚市の商業・工業・農業・漁業・観光をよろしくお願いいたします！

ビスキュイテリ マ・コピーヌ

住所：神奈川県平塚市西八幡3丁目5番6号

電話：0463-24-1822

営業時間：11時～18時

定休日：日曜日、月曜日

URL：<http://www.ma-copine.com>

こららぼ事務局

平塚市役所産業振興課

〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号 本館5階

直通電話番号：0463-21-9758

ファクス番号：0463-35-8125